

NEWS LETTER

教育開発支援

November 2020
No.
41

令和2年度 GPS-Academicの分析結果について…………… 01～06
教育開発支援委員会・教務課IR担当
平成元年度 卒業生アンケートの結果について…………… 07～08
教育開発支援委員会・教務課IR担当

令和2年度 GPS – Academic の分析結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

1. 今年度の受検状況

GPS-Academicは、かつて実施していた「大学生基礎力レポートⅠ・Ⅱ」から切り替えて今年で2回目の実施となるが、受検状況については、1年次は昨年度を上回る受検率であったが、2年次以上については昨年度を大きく下回っている。

1年次については、大学からのお知らせにしたがって受検したものと思われるが、2年次以上の学生については、新型コロナウイルス感染拡大防止の必要から、年度当初の各種ガイダンスを実施できなかったことによる周知不足や、キャンパスへの入構を禁止せざるを得なかったことから、学生が端末室等で受検することが出来なかったことなども影響し、受検の動機に結び付かなかったものと考えられる。

2. 分析のポイント

GPS-Academicの概要については、本誌第39号に掲載しているため、そちらを参照いただくこととし（専修大学HPトップ／学生生活／授業・履修情報／教育開発支援NEWSLETTER）、教育開発支援委員会および教務課IR担当者では、今年度における分析ポイントを以下の3点に絞ることとした。

- (1) 2020年度入学者の入学前学習状況
- (2) 卒業認定・学位授与の方針の検証
- (3) 自由記述の分析

「(1) 2020年度入学者の入学前学習状況」については、今年度から新たに設定した大学独自設問から得られるデータであり、受検率の高かった

表 1 GPS-Academicの受検状況

学生年次	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	大学生基礎力レポートⅠ・Ⅱ		GPS-Academic			
	受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率
1年次	3,953	99.0%	2,951	76.5%	3,487	80.0%
2年次	3,593	85.4%	1,358	33.9%	290	7.5%
3年次	2,871	65.3%	1,160	28.3%	138	3.5%
4年次以上	—	—	548	11.4%	64	1.3%

1年次の回答である。高校時代の科目履修状況を問うており、本学で全学共通で開講している転換・導入科目等との高大接続に関する調査項目となる。次に「(2) 卒業認定・学位授与の方針の検証」は、前年度以前から取り組んでいるものであり、継続して分析・検証することが重要であるため、本年度に関しても同様の分析を行った。最後に、「(3) 自由記述の分析」については、今年度からGPS-Academicで実施可能となったものであり、ここから得られるデータに自然言語処理技術を活用し、定量的に分析を試みた。

(1) 2020年度入学者の入学前学習状況

本年度は一部の大学独自設問を変更し、高校時代の科目履修状況を問う設問を新設した。具体的には「情報」および「数学」、「理科」の履修状況を問う内容である。これは本学で1年次対象に実施している転換・導入科目「情報入門1・2」や「データ分析入門」、「あなたと自然科学」の実施状況等と関連していると考えられ、全学共通の大学レベルで設定している「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」における「(1) 本学での学修の基礎となる知識と技能」の現状を把握し、授業内容を精査するために重要である。各設問の内容と選択肢、回答割合は表2

表2 2020年度入学者の入学前学習状況

あなたが高等学校等で受けた「情報」の科目について、以下の選択肢から最も近いものを1つ選んでください。		選択割合
1	「社会と情報」のみ	61.55%
2	「情報の科学」のみ	23.23%
3	「社会と情報」と「情報の科学」の両方	5.60%
4	「社会と情報」と「情報の科学」に加えて、その他にも「情報」の科目も受けた	1.54%
5	「情報」の授業は受けていない	8.07%

あなたが高等学校等で受けた「数学」の科目について、以下の選択肢から最も近いものを1つ選んでください。(数学活用は除く)		選択割合
1	「数学Ⅰ」のみ	2.50%
2	「数学Ⅰ」+「数学A」	9.25%
3	「数学Ⅰ」+「数学B」	0.48%
4	「数学Ⅰ」+「数学A」+「数学B」	1.78%
5	「数学Ⅰ」+「数学Ⅱ」	1.78%
6	「数学Ⅰ」+「数学Ⅱ」+「数学A」	20.22%
7	「数学Ⅰ」+「数学Ⅱ」+「数学B」	0.57%
8	「数学Ⅰ」+「数学Ⅱ」+「数学A」+「数学B」	56.51%
9	上記のいずれかの選択肢に加えて「数学Ⅲ」も受けた	6.36%
10	数学の授業は受けていない	0.54%

あなたが高等学校等で受けた「理科」の科目について、以下の選択肢から最も近いものを1つ選んでください。(「基礎を付した科目」および「科学と人間生活」について)		選択割合
1	「科学と人間生活」+「物理基礎」	0.97%
2	「科学と人間生活」+「化学基礎」	2.06%
3	「科学と人間生活」+「生物基礎」	4.99%
4	「科学と人間生活」+「地学基礎」	0.57%
5	「物理基礎」+「化学基礎」+「生物基礎」	58.95%
6	「物理基礎」+「化学基礎」+「地学基礎」	0.76%
7	「物理基礎」+「生物基礎」+「地学基礎」	2.15%
8	「化学基礎」+「生物基礎」+「地学基礎」	18.33%
9	受けた「理科」の基礎科目は上記の選択肢よりも多かった	7.47%
10	受けた「理科」の基礎科目は上記の選択肢よりも少なかった	3.75%

令和2年度 GPS-Academicの分析結果について

の通りである。結果を見ると「情報」に関しては1科目のみを履修している学生がほとんどであり、数学に関しては数学Ⅰ・Ⅱ・A(+B)を履修している学生が七割強となっている。また「理科」に関しては「科学と人間生活」の履修者は少なく、基礎3科目を履修している学生がほとんどで、「基礎を付した科目」以外の科目の履修は少ないと推測される。

これらの結果と、現在開講されている転換・導入科目の講義内容やレベル、学修成果といったカリキュラムやラーニング・アウトカムズに関わる部分を高大接続の観点から、より詳細に点検・評価していくことが望まれる。

(2) 卒業認定・学位授与の方針の検証

本学では、学士課程全体の卒業認定・学位授与の方針（以下、「DP」という）において、次の4つの項目を身につけなければならない資質・能力として掲げ、各学部・学科では、これを踏まえてそれぞれのDPを策定している。

[DP1] 社会知性の核となる、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法を身につけ、

活用することができる。(知識・理解)

[DP2] 社会知性の意義を理解し、人間理解、倫理観、地球的視野を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組み、その能力を生涯にわたって開発し続けることができる。(関心・意欲・態度)

[DP3] 論理的思考力、コミュニケーション能力、情報リテラシーを身につけ、それを活用して情報の収集・分析・発信を行うことができる。(技能・表現、思考・判断)

[DP4] 大学における学修で身につけた知識・技能を活用し、創造的かつ主体的に社会の諸課題に取り組むことができる。(思考・判断)

以下ではまず、これらのDPの学生認知度について確認し、次いで成長実感の自己評価項目の集計結果を示す。

(i) DPの認知度

DPは、大学のホームページに掲載するとともに、2018年度からは各学部・学科のDPを学修ガイドブックにも掲載している。

大学が定めている「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」および「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」を知っていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】

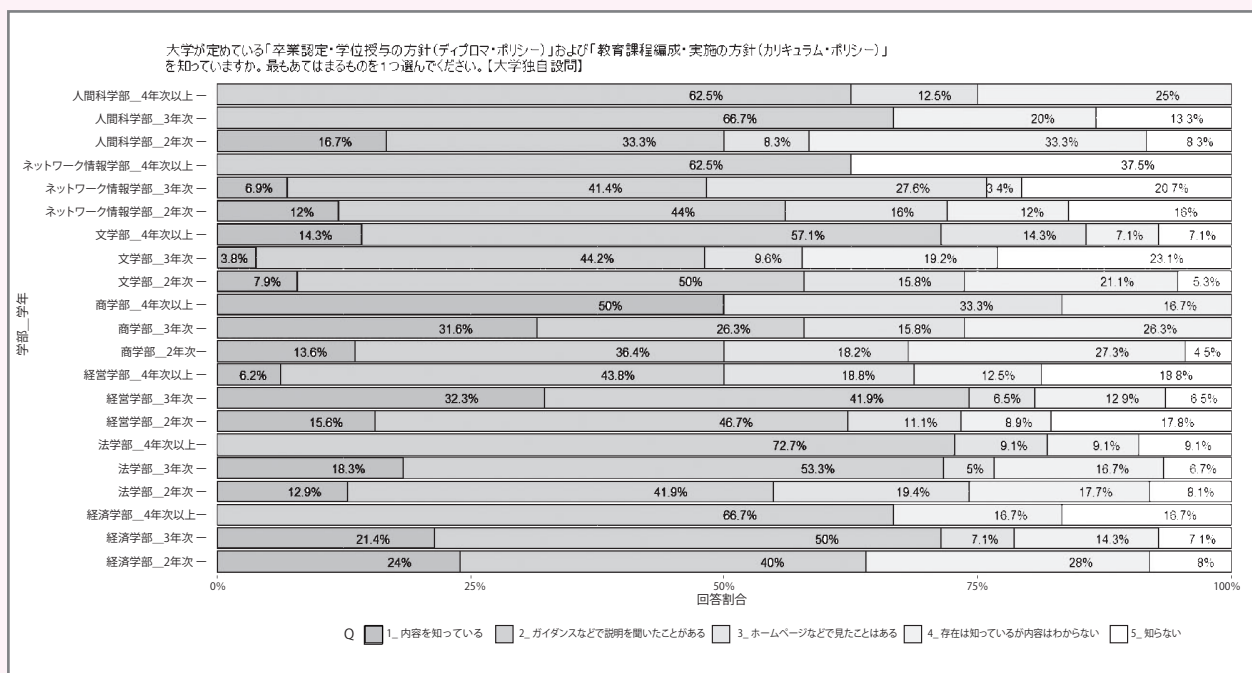


図1 DPの学生認知度

DPの認知度については、大学独自設問として例年前ページの質問項目を設定している。学部によって多少の違いはあるものの、「内容を知っている」、「説明を聞いたことがある」と回答した学生がほとんどの学部・学年で50%以上であり、昨年度まで上昇していた。これにより、DPを策定して数年が経過したことで、徐々に学生の間の認知度も向上していることがうかがえる。

(ii) 学修成果の自己評定

次に学修成果に関する自己評定に関して、大学独自設問として専門的な知識・技能に関する自己評定、GPS-Academicの共通項目として成長実感の二つの項目を取り上げる。

まず、専門的な知識・技能に関する設問の回答状況から、ほとんどの学部・学年で肯定回答の割合が50%を超えている。半数以上の学生が、本人の感覚としては、所属する学部・学科の専門的な知識や技能、思考方法が、ある程度身につけているという実感を持っているようである。

また、GPS-Academicの共通項目である成長実感

の項目では、専門的な知識・技能の回答状況と比べて肯定回答の割合がやや多かった。選択肢の違いはあるが、専門的な面に限定しなければ、多くの学生が成長を実感しているといえるのではないだろうか。

(3) 自由記述の分析

GPS-Academicは、2020年度からの変更として自由記述設問が設定できるようになった。自由記述による調査は、文章として直接的に回答者からの情報を得ることができるが、その量が大量になると読解・解釈が困難となる問題点がある。GPS-Academicでは、二部在生を除く、全在生を調査対象としているため、自由記述の文書量は膨大になると予想されることから、自然言語処理の技術であるトピックモデルを用いて文章を分類し、自由記述の分析を行った。GPS-Academicの自由記述設問は回答が任意であるため、受検者のうち自由記述回答が得られた件数は表3の通りとなった。なお、設問は1年次を対象とした二問と2年次以上を対象とした三問の計五問に分かれており、それぞれ

大学におけるこれまでの学修を通して、所属する学部・学科の専門的な知識や技能、思考方法について、あなた自身どの程度身についたと感じていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】

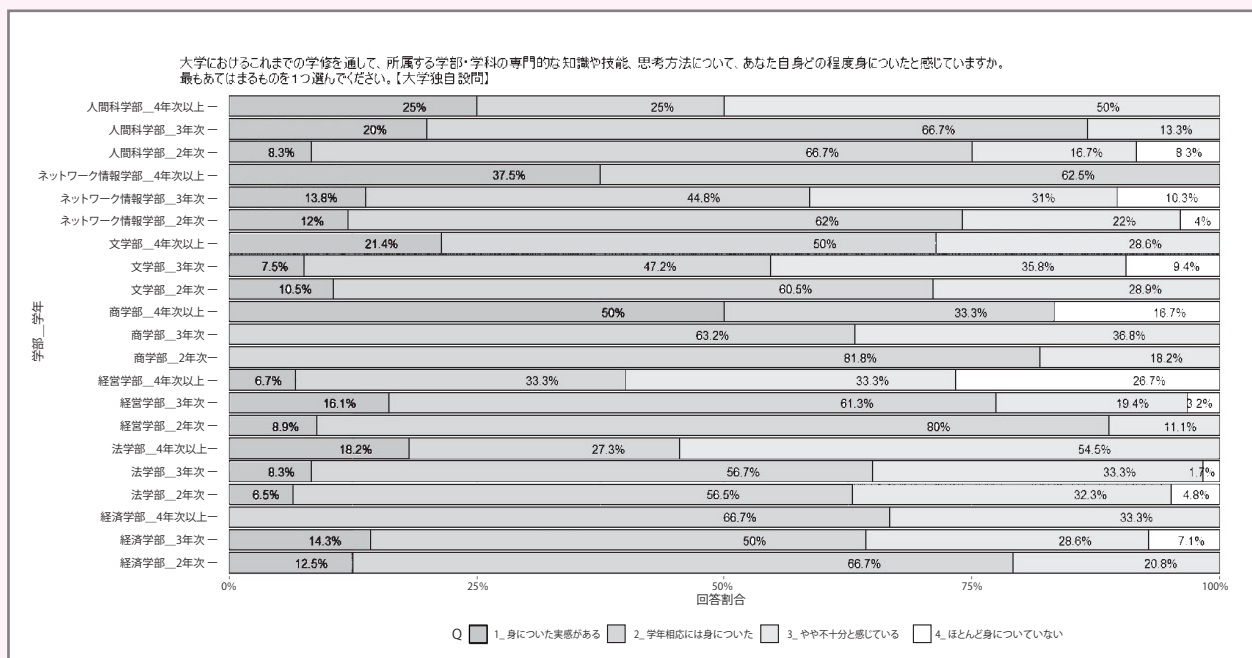


図2 専門的知識・技能、思考方法についての成長実感

成長実感

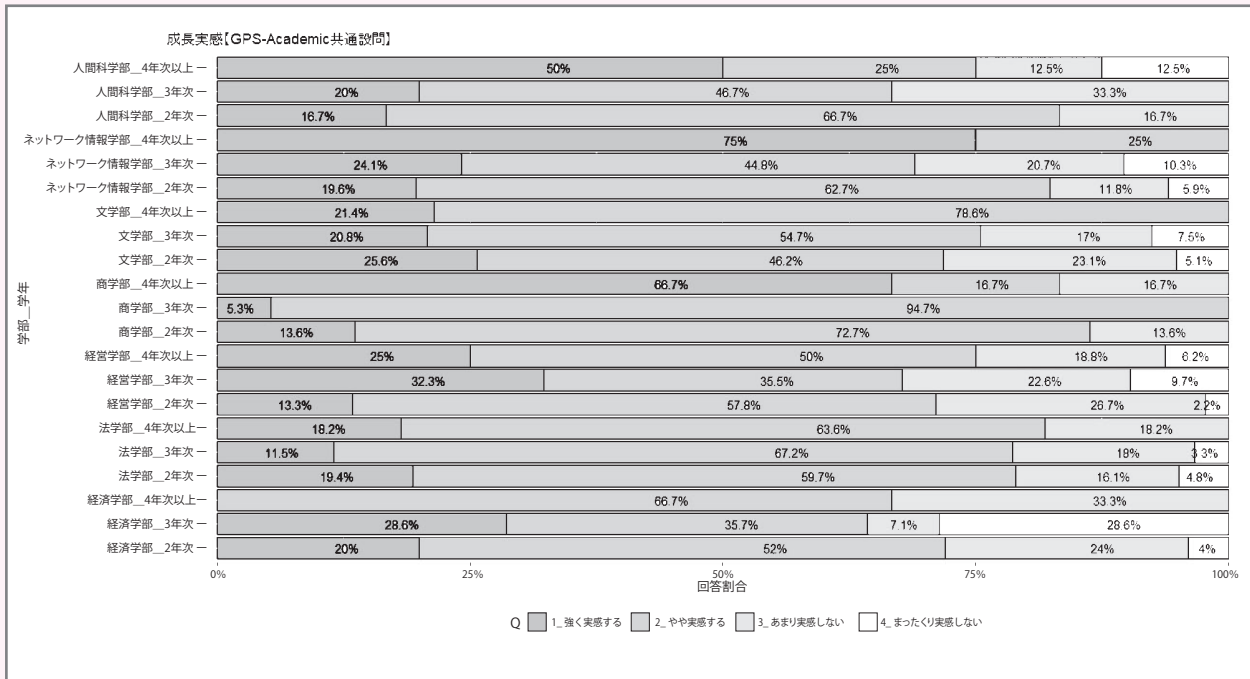


図3 成長実感【GPS-Academic共通設問】

表3 自由記述設問と回答状況

対象	設問	自由記述回答者数	合計文字数	平均回答文字数
1年次	① あなたが最終的に専修大学に入学した理由を出来るだけ詳しく記入してください	2,852	145,938字	51.2字
	② これからの1年間で自分が取り組みたいことや学びたいことについて出来るだけ詳しく記入してください	3,026	173,566字	57.4字
2年次以上	① 専修大学に入学して良かったと感じた点とその理由について出来るだけ詳しく記入してください	284	22,623字	79.7字
	② 専修大学に対して改善してほしいと感じた点とその理由について出来るだけ詳しく記入してください	272	19,139字	70.4字
	③ これからの1年間で自分が取り組みたいことや学びたいことについて出来るだけ詳しく記入してください	312	18,998字	60.9字

の設問に対して分析を行うこととした。

紙面の都合上、すべての設問の結果についてここで触れることは出来ないが、一例として2年次以上の学生への設問①を取り上げると、表4の結

果となった。トピックモデルを作成することで大量のテキストデータの分類および出現件数カウントを行うことが可能となり、解釈性能が向上した。この設問では1年以上在学した学生に、専修

表4 専修大学に入学して良かったと感じた点とその理由

トピック 順位	トピックラベル	件数	各トピックを代表する単語 (確率順上位10位)
1	幅広い分野を学べる	69	分野,興味,学び,学ぶ,知識,学べる,科目,学問,幅広い,今
2	キャリア・就職支援が充実	45	友人,多く,活動,社会,キャリア,サークル,非常,支援,内容,豊富
3	ゼミナールでの教員・学生間の距離が近い	43	専修大学,学生,様々,考え,学科,人,所属,理由,距離,ゼミナール
4	キャンパスの雰囲気や立地が良い	43	大学,環境,キャンパス,生活,関係,雰囲気,多い,ゼミ,面,科目
5	資格試験講座が充実している	42	講座,資格,公務員,受講,充実,サポート,試験,取得,図書館,必要
6	勉強ができた or(and)友達ができた	41	勉強,友達,先生,高校,時間,充実,いい,施設,図書館,将来
7	特定分野+ 経験	33	学習,専門,様々,多く,経験,学部,選択,教授,他,受ける
8	授業に関すること	32	授業,人,英語,クラス,学校,能力,考え方,面,丁寧,対応

大学の良かったと感じた点を回答させている。すなわち、ここに現れるトピックは学生から一定の評価を得ている事項と考えられる。トピック順位1位には「幅広い分野を学べる」が上がり、自由記述を見ると当初予想していなかった学問分野との出会いがあったことがうかがえる。次いで「キャリア・就職支援が充実」、「ゼミナールでの教員・学生間の距離が近い」というトピックがあがっている。

3. まとめと考察

前項までのように、GPS-Academicの結果について各種分析を行ったが、最後に所見と共にまとめと考察を行う。

(1) GPS-Academicの受検率について

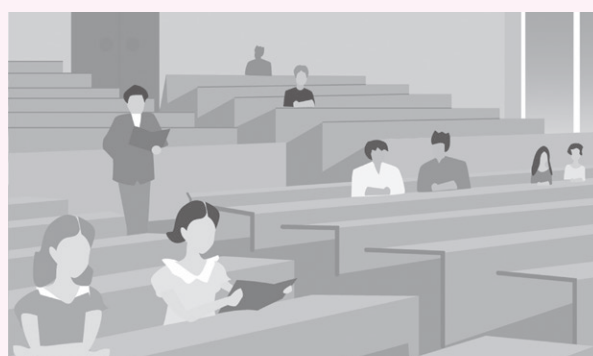
今年度特有のコロナ禍の影響や昨年度確認されたCBTでの実施に伴う受検率の低下から、アセスメントテストの受検率は低調であった。GPS-Academicは学生個人へのフィードバックも重要な手順として位置づけており、受検しなかった学生は、当然ながらフィードバックを受けることができない。今後、このアセスメントテストを継続して実施していく上では、学生個人が受検するメリットを感じるような対策が必要であると考えられる。

(2) 2020年度入学者の入学前学習状況

本年度初めて、高校時の科目履修状況について調査を行った。本学で1年次対象に転換・導入科目として開講している「情報入門1・2」や「データ分析入門」、「あなたと自然科学」の科目内容との接続性を考える上で、積極的な利活用が求められる。

(3) 自由記述設問の分析について

テキストデータは、有益な情報が得られる反面、データ量が大量になると解釈することが困難になるという難点があったが、トピックモデルを用いて分類および出現件数カウントを行うことで、解釈可能なレベルにまとめることができた。さらに、この分類を用いて分類した生のテキストデータを読むことで、学生の生の声が大学運営側にもダイレクトに伝わるようになった。



令和元年度

卒業生アンケートの結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

I 実施状況

卒業生アンケートは令和元年度で5回目の実施となる。アンケートは、すべての学部・学科の卒業生を対象に、卒業式・学位記授与式の会場で行っているが、本年度はコロナ禍の影響から学位記交付の際に取得した。5カ年の実施状況は次のようになっている。

年度	卒業生数	有効回答数	有効回答率
平成27年度	4,128	3,575	86.8%
平成28年度	4,197	3,577	85.2%
平成29年度	4,152	3,249	78.3%
平成30年度	4,107	3,446	83.9%
令和元年度	4,235	3,730	88.1%

II アンケート結果の概要

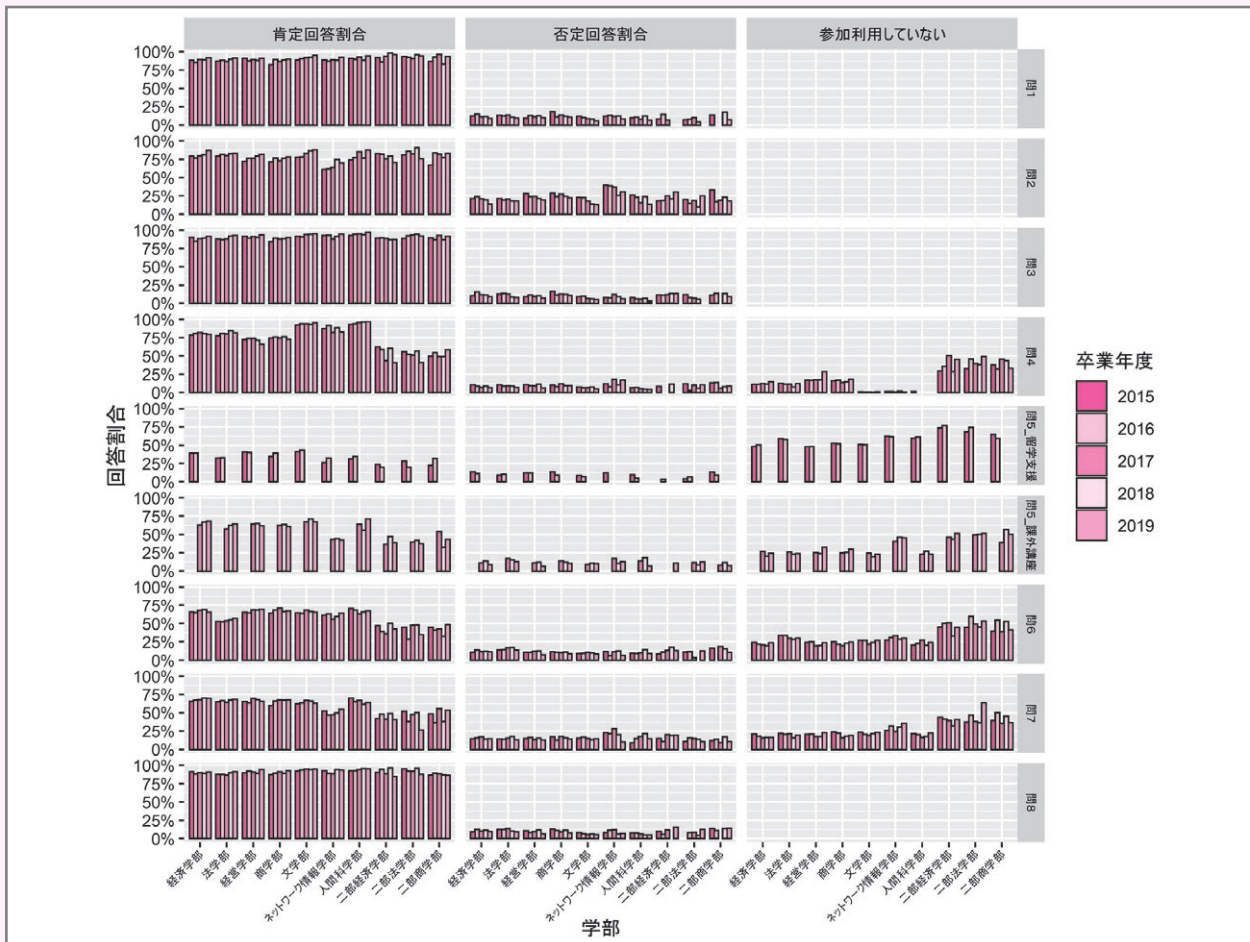
(1) 満足度について

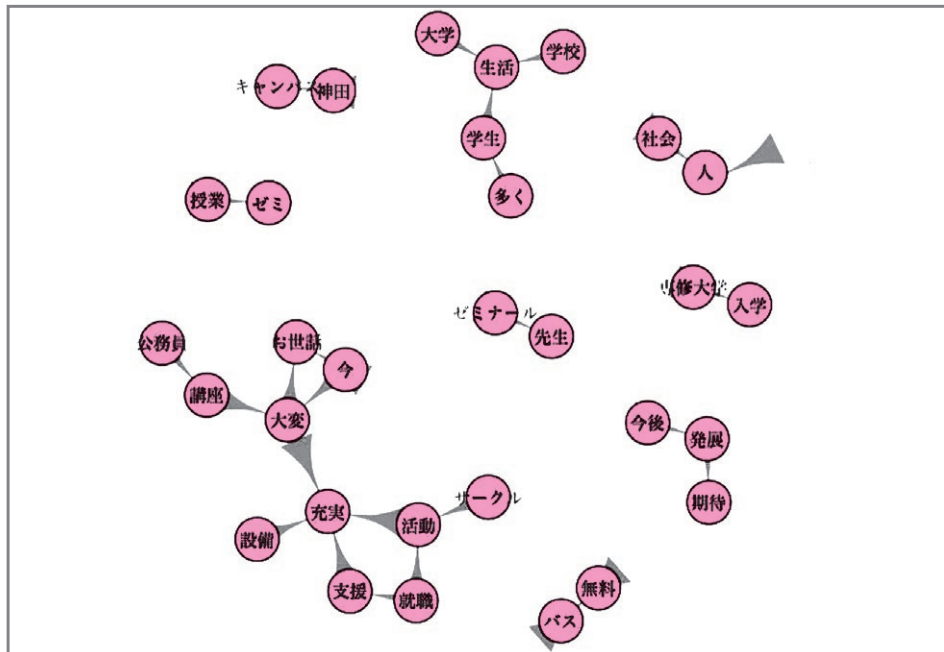
本稿では卒業生アンケートで設定している設問

項目の内、学生の満足度に関する設問項目に注目してその傾向を探ってみることとした。関連する設問は以下の8つである。それぞれについて(1)満足している、(2)ある程度満足している、(3)あまり満足していない、(4)満足していない、の4つから1つを選択して答えてもらった。

設問番号	設問
問1	授業(教養科目)について
問2	授業(外国語科目)について
問3	授業(専門科目)について
問4	授業(ゼミナールまたはプロジェクト)について
問5	国際交流・留学支援について(～2016年度) 各種課外講座等(資格取得支援、各種試験対策等)について(2017年度～)
問6	課外活動全般(クラブ・サークル等)について
問7	就職支援について
問8	学生生活全般を振り返り、専修大学に在籍したことに満足していますか。

※ただし「国際交流・留学支援」について尋ねる項目は、2017年度卒業生からは「各種課外講座等」の満足度を問う設問へと変更されている。





前ページのグラフは、回答内容を肯定的なもの、否定的なもの、参加・利用していない、の3つに整理して5年間の変化を示したものとなる。

授業についてはどの学部の卒業生も、どの種類の授業についても高い満足度があることがわかる。外国語科目は毎年満足度が上がっている。大学での総合的な満足度についても、すべての学部・卒業年度で肯定回答率が8割を超えている。専修大学の卒業生は、学生生活全般について高い満足度を持って卒業していることが分かる。

(2) 自由記述のテキスト分析

次に、自由記述欄の傾向を知るために、記入された言葉をテキストデータにして分析した。データにしたものから名詞のみを抽出して出現頻度をカウントし、wordcloudを用いて可視化したのがページ上段の図である。出現頻度の高い名詞ほど文字サイズが大きく表示されている。「お世話」や「充実」、「先生」などの語の頻度が高い。

テキストデータにしたものを文字間の関連について分析して、共起ネットワークにしたものが次の図である。昨年度に比べて解釈可能な共起ネットワークが少ない印象がある。これは昨年度までは卒業式当日の会場においてアンケート記入を促していたが、本年度は新型コロナウイルスの影響により簡略化された学位記交付式となった影響によると推測される。

卒業生アンケート各設問の集計結果は、専修大学ポータル「ライブラリ」に掲載しています。ぜひご覧ください。

教育開発支援 NEWSLETTER

専修大学教育開発支援委員会広報誌 第41号 (Vol.21 No.1)

発行日 令和2年11月30日
 発行者 専修大学教育開発支援委員会
 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
 TEL.044-900-7857 FAX.044-900-7856
 E-mail fd@acc.senshu-u.ac.jp
 編集協力 (株) 芳文社